

助動詞 「たり」「り」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ
り	ら	り	り	る	れ	れ

◇接続

「たり」は連用形接続、「り」はサ行変格活用未然形・四段活用已然形に接続する。

※ 「り」の接続は頭文字をとって、「サミシイ」で暗記する。

◇意味

① 完了「ゝた」

…動作・状態がすでに終了していることを表す。

例) 子の時ばかりに、家のあたり、昼の明かさにも過ぎて光りたり。(竹取物語)
(夜の十二時ごろに。家のあたりが、昼の明るさにも増して、光り輝いた。)

② 存続「ゝている」

…ある状態が継続していることを表す。

例) 夕日の差して山の端いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとて (枕草子)
(夕日がさして、山の端に近くなっているところに、鳥が巢に帰ろうとして)

※ 「完了」か「存続」かは、動作動詞に続けば「完了」、状態動詞に続けば「存続」になります。

◇「たり」の識別

① 完了・存続の助動詞「たり」

↓連用形に接続している。訳したときに「ゝた・ゝている」という意味になる。

② 断定の助動詞「たり」の終止形

↓体言に接続している。訳したときに「ゝである」という意味になる。